

ストップ「コロナ・ハラスメント」 ～正しい情報をもとに冷静な行動を～

市民の皆さんには、日頃から新型コロナウイルス感染症の拡大防止にご協力をいただき、ありがとうございます。

国内においては、新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式の実践」の取り組みが進む中、国は「Go To トラベルキャンペーン」を始めるなど、感染対策と経済活動の両立を進めています。市内においても、徐々に観光客の姿が戻りはじめられています。

このような状況下では、細心の注意を払い生活をしていても、感染する危険性は誰にでもあり、市内においてもいつ感染者が発生するかわかりません。

今、うわさ話や SNS など、新型コロナウイルス感染症に感染された方やその家族に対する差別、また誤った情報によって、感染していない方へも差別が広がっており、さらには医療関係者やその家族までもがいわれのない差別で苦しんでいます。

実際に、県内でも感染者や濃厚接触者、医療従事者などに対する誤解や偏見による差別的な扱いや言動が報告されております。また最近ではその対象が他地域から訪れる方や外国人までに広がっています。

全国では差別に関する事例として、次のようなことが起こっています。

- ・退院した感染者が、お店の方から「帰れ」と言われた。
- ・会社に復帰する際に「陰性証明を持ってこい」と言われた。
- ・他県ナンバーを理由に嫌がらせを受けた。
- ・インターネットで感染者を名指しするような書き込みがあった。
- ・医療従事者の子どもが、保育所で受け入れ拒否やいじめを受けた。
- ・飲食店が、感染者が発生したという噂により、風評被害にあった。

このような不当な差別や偏見、誹謗中傷は許されるものではありません。

岐阜県の感染症対策基本条例では、このような差別的扱いは禁止されており、県知事と県内 42 市町村長が共同で「ストップ コロナ・ハラスメント宣言」も発表しています。

新型コロナウイルスは誰でも感染する可能性があり、私たちが闘っている相手は、人ではなくウイルスなのです。**感染した方を「思いやり」、最前線で治療等にあたる医療従事者や関係者の方々に「感謝」する**など、人との絆を大切に、この難局を乗り越えていきましょう。

最後になりますが、市民の皆さまには、**今後、市内で感染者が発生したとしても、いわれのない差別や偏見などが向けられることが絶対にならないよう、冷静で良識ある言動をお願いします。**

令和2年9月29日

高山市長 國島 芳明